

飯島賢二の 『恐縮ですが...一言コラム』

第 409 回「節電」で協力するしかないのかなあ...？

2011.3.20

歴史的、未曾有の大惨事に、被災者はもちろん、支援者の多くの人々が頑張っている。そんな中、如何に自分が微力なのか、痛感したこの一週間、それでも何かアクションをと、わずかな義援金の募集と、電気の無駄遣いを辞めることを実践するしかないとした。今回は、勝手なコラムではなく情報提供であった。が、節電を通して、少しでも被災者と「心」でつながってほしい...。そんな、私自身の、微力ながらの協力実践の表明でもある。
(なんと事はない、自分自身のためにもなる・・・m(____)m)

「節電」のこと改めて考えてみた。事業所は基本的「残業の禁止」を決定し、節電をうるさいほど徹底させることとした。自宅での生活も見直すこととした。家庭内の消費電力の 4 割はエアコン (25.2%) と冷蔵庫 (16.1%)、次いで照明器具が 16.1%、テレビが 9.9%、電気カーペットが 4.3%、温水洗浄便器が 3.9%、衣類乾燥機が 2.8%、食器洗い乾燥機 (食洗機) が 1.6%、その他が 20.2%となっている。以下、主な節電方法である。

エアコン...長時間使用するので、設定温度を少し変えるだけで、大幅な節電ができる。温度の設定を 1 下げると、消費電力は 10%ダウンするらしい。冬はコタツや重ね着、さらに日が暮れてからカーテンを閉めるなどをすると節約効果が上がる。設定温度 20 度の暖房を 1 日 1 時間短縮した場合、年間で約 900 円の節約になる。

冷蔵庫...設定を「強」から「中」にするだけで、消費電力は 11%ダウンする。扉の開閉をできるだけ避け、開けたらすぐに閉めるだけでも、大きな効果がある。意外で最も注意したいのは食物の詰めすぎ。冷蔵庫内に隙間がないとこれで 5%も冷蔵庫の電気代が増えてしまう。設置場所でも随分違う。冷蔵庫の中の熱をうまく外に出せるようにしてあげなければならない。従って、冷蔵庫の後ろを約 10 センチ、横は約 2 センチ空けると 10~20%の電気代の節約になると言われている。

照明器具...不要な照明を消すことが一番有効だ。これからは廊下やトイレ、洗面所などはセンサー付照明器具にするのがいいだろう。点灯している時間が長い器具については、白熱電球を蛍光灯や LED 電球に交換するだけで、節電効果は大きい。

テレビ...電気代はブラウン管よりも液晶テレビの方が、すこし節電効果がある。ただし、最新のテレビといってプラズマ方式は電気を多く消費し、耐用年数もブラウン管テレビよりも短いといわれている。テレビを消すときは、主電源をオフにすること。
ついでに

パソコン...パソコン用のモニターもブラウン管モニターより液晶モニターの方が省エネ設計になっている。パソコンも、使わないときは電源を切るのが基本だ。長時間操作しないと自動的に画面に現れる「スクリーンセーバー」は消費電力を下げることにはつながらないので要注意だ。コンセントを抜くだけで、デスクトップの場合は 14%、ノートパソコンで 24%の消費電力削減になる。

さらに、**温水洗浄便器**は、便座のヒーターを止めるたり、設定温度を下げるのが有効だ。また、便座のフタを閉めて置くだけでも11～19%の節電効果がある。さらに節電モードにすれば25～29%と、節電効果大である。

電気カーペットは、暖房器具共通の方法として、設定温度を下げれば良い。カーペット全面ではなく、人がいる半分とか1/3だけを暖められる製品も少なくないので、そういう機能も有効に使いたい。

乾燥機。洗濯乾燥機の場合は、比較的簡単で有効な節電の手段がある。洗濯乾燥機で洗濯だけおこなって、乾燥機能を使わずに干すのだ。一例を上げると、洗濯のときの消費電力は230W、乾燥時は850Wと3倍以上違い、かなりの節電ができる。洗濯物の量に注意すると、少ない洗濯物を何度も洗って乾燥させるよりも、まとめて洗濯と乾燥をした方が良い。乾燥を省略するという手は、**食洗機**でも同じである。

電池...電池は電気機器にセットしておくとしスイッチをオンにしなくても少しづつ放電している。使わない時は電池を抜いておくとし電池の節約になる。デジカメなど電気の消費量が激しく、外出時に使用頻度が高いものは充電電池を使用すると節約になる。充電電池の充電は深夜に行くと節電になる。充電電池何度も充電を繰り返すと充電できなくなる。そこで、充電電池は満タンで保存しておくとし充電電池そのものが長持ちする。

保温はしない...という考え方も定着させたい。ご飯の保温、コーヒーの保温、お湯の保温・・・最近はず必ず保温機能がついている。風呂も24時間、いつでも適温の風呂に入れるような機能がついていたりする。しかし、保温は無駄に電気を消費するのだ。しかも、その消費量も馬鹿にならない。ご飯はまとめて炊いて保温するよりも、そのつど炊いた方が電気代を節約できる。ポットも電気を使わない昔ながらの魔法瓶ポットがホームセンターで2,000円弱で手に入るし、魔法瓶ポットでも約10時間75度前後の温度を保つ事が出来る。お茶を飲むのに100度の熱湯は必要ないから、ポットは魔法瓶ポットにしよう。

もう一つは、「**待機電力**」についてである。

家電製品は、人が使っていないときでも、人の操作にする対応できるように少しだが電気を消費している。これを待機電力という。待機電力の比率は、家庭で使用する電力全体の7.3%を占める。これは家庭内消費電力でいうと、テレビに次ぐ5番目にあたるので、無視はできない数字だ。待機電力の消費量が多い順に、ガス給湯器、ビデオデッキ、電話機、エアコン、テレビ、高機能便座、衛星放送チューナー、電子レンジの順になる。1番目のガス給湯器は13%だが、全体の13%ではなく、全体の7%のうちの13%だから0.9%にしか相当しない。が、チリも積もれば・・・ということになるだろう。コンセントを抜くこと！

さらに、スイッチを入れる前に時刻を意識するつまり「**ピークシフト**」も、大きな節電効果を挙げる。電力消費が多い時間帯だけ使用を避け、ピークを少しでも低くすることである。調理家電であれば、夕食の時間をずらすとか、事前に調理が済む料理にするなどの方法が考えられる。掃除機や洗濯機であれば、スイッチを入れる前に、「いま何時なのか」と考える習慣を付けるだけでも良い。みんながピークを避けることで電力消費の山がなだらかになれば、それで成功といえるのだ。

そして最後は、「**契約アンペアを下げる**」ということだ。可能ならブレーカーのアンペアを最寄の電力会社に電話して下げてもらおう。基本アンペアを下げることによって電気料金の基本料を下げる事が出来、節約にもなる。